

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松本市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除の取組
事業費 5,135,530 円 (うち支援金: 5,060,000 円)		

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫によるアカマツの枯損被害が進行しており、市域の南限から、他市村へ感染が広がり始めている状況。

#### (2) 本事業の目的

市内で行われる、松くい虫被害木の伐採処理に対し補助金を交付することで、被害の拡大及び倒木被害の防止を図る。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 松本市内 (地区実施計画松林外)

(2) 対象者 松管理者 (個人・団体)

(3) 実施方法 市内で行われる被害木の伐倒及びくん蒸・破砕費用へ補助金を交付する

(4) 事業目標及び当年度事業量

#### ①全体計画 (令和元～4 年度)

年間交付件数 140 件以上の補助金交付を見込む

#### ②令和元年度計画

交付件数 140 件



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

市内の松くい虫被害木の除去を促すことで、被害拡大の防止を図ることができる。また、倒木による被害を未然に防ぐことができる

(2) 継続性

次年度以降も補助金交付事業を継続する。

(3) 普及性

市公式HP等で補助制度の周知に努めることで、事業の普及が図られる。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

感染源となる被害木を処理することにより、防除への住民意識の向上が図られた。

(2) 課題

森林外においても松くい虫の被害の拡大があり、申請件数は増加傾向にある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

塩尻市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の被害防除の取組
事業費 11,033,000 円 (うち支援金: 2,092,000 円)		

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

隣接市からの被害南下に伴い、片丘地区市道山麓線沿線を中心に松くい虫被害が年々拡大し、平成 29 年度檜川地区を除く全ての地区に被害が発生した。

隣接市からのカミキリ被害進入路である山林は特定しているが、被害に対し、伐採処理が追いついていない状況から、本市側の近隣住宅地、山林に被害が拡大している。

被害木については、巡視等により即時伐採処理をしているが、被害に対し後手の対策となっている。

#### (2) 本事業の目的

カミキリムシの飛翔距離 2 から 2.5 km 範囲の松林を伐採し、カミキリムシの侵入と更なる被害拡大を未然に防止するための緩衝地帯の整備を実施する。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 塩尻市大字広丘堅石(奈良井川左岸)

(2) 対象者 山林地権者 12 名

(3) 実施方法 地権者の承諾を受け、対象区域内の全アカマツの搬出伐採。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 年から令和元年度) 平成 30 年度 1.35ha 令和元年度 3.55ha

②令和元年度 令和元年度 3.55ha



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の抑制及び拡大防止

(2) 継続性

松くい虫被害が今後も想定されるため、被害の拡大防止の観点からも継続が必要である。

(3) 普及性

被害の蔓延防止と、倒木等による二次被害の防止及び景観の維持を図ることで事業効果を伝える。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松枯損木の処理をすることで、松くい虫被害の蔓延防止と倒木による二次被害の防止が図られ、市民生活の安心・安全を確保することができた。

(2) 課題

松くい虫被害の拡大により、松枯損木の処理の増加が見込まれ、市民への補助制度の見直しも必要になっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害も継続的に発生していることから、補助制度の見直しも含め今後も事業の継続を行う。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	安曇野市
------	------

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除等 病虫害防除の取組【松くい虫防除対策事業】
事業費		2,253,000円 (うち支援金: 2,245,000円)

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

当市では、松くい虫被害の拡大により、平成 25 年度には過去最高の 8,817 m<sup>3</sup>の被害量となった。その後、若干被害量は減ったものの、依然 8,000 m<sup>3</sup>前後の高水準で被害が続いている。被害は森林エリアだけではなく平地(庭木等)にまで広がっている。

#### (2) 本事業の目的

個人庭園等の松枯死木の伐倒駆除経費に対して補助金を交付し、市全体の健全な松の保全や被害蔓延防止を図る。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 実施場所 安曇野市内

#### (2) 対象者 市内の松を所有する者

#### (3) 実施方法 市内の個人庭園松や地域神社林の枯死した松を伐倒処理した経費に対して 2 分の 1 以内の補助金を交付する。実績補助とし実績報告により補助金を交付する。

#### (4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画(平成 30~令和 4 年度) 松枯損木伐倒処理: 年間処理本数 500 本を想定

② 令和元年度実績 全体計画の内本事業対応分として、松枯損木伐倒処理 42 本



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害の抑制及び拡大防止

(2) 継続性

松くい虫被害が今後も想定されるため、被害の拡大防止の観点からも継続が必要である。

(3) 普及性

被害の蔓延防止と、倒木等による二次被害の防止及び景観の維持を図ることで事業効果を伝える。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松枯損木の処理をすることで、松くい虫被害の蔓延防止と倒木による二次被害の防止が図られ、市民生活の安心・安全を確保することができた。

(2) 課題

松くい虫被害の拡大により、松枯損木の処理の増加が見込まれ、市民への補助制度の見直しも必要になっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害も継続的に発生していることから、補助制度の見直しも含め今後も事業の継続を行う。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

安曇野市

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の推進 【安曇野市里山再生計画推進事業】
事業費	333,000円	(うち支援金: 333,000円)

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

里山は、人々が長い年月にわたり利用し続けたことによって、成り立ってきました。しかし、私たちの生活スタイルの変化などに伴い、里山を利用することが少なくなりました。その結果、里山には様々な問題(松枯れ被害、有害鳥獣害など)が生じています。

#### (2) 本事業の目的

里山再生計画では、人々が今の生活スタイルにあった里山を利用する取組として、里山の資源を利用、里山での活動推進、松枯れ・鳥獣被害の減少の 3 つを掲げ、具体的な 5 つのプロジェクトにより、現在の里山でおきている課題解決につなげていきます。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市内

(2) 対象者 安曇野市内で活動する市民、事業者等

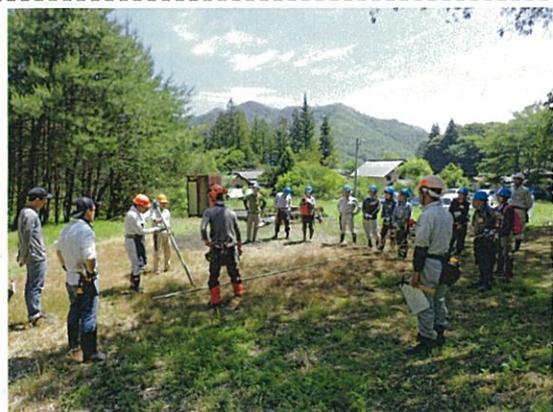
(3) 実施方法 具体的な 5 つのプロジェクトにより里山での取組を実施する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～令和 4 年度)安曇野市里山再生計画(平成 27～令和元年度)

令和 2 年度以降については、第 2 期計画の策定予定

②令和元年度実績: 具体的な 5 つのプロジェクトにより取組を実施



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施の効果

本事業により、里山を身近に感じる機会を増やし、里山への関心を高め、里山で活動する地域住民等が増える。

### (2) 継続性

平成27年3月に策定された「安曇野市里山再生計画」のなかの具体的な取組みであり、安曇野市として計画を継続的に推進している。

### (3) 普及性

本事業は、市民等と行う協働の取組として実施されており、各プロジェクトの取組により市民等へ浸透していく。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

さとぷろ。学校を8講開催し、11名の受講生を迎えることができた。

里山で活動する知識や技術を習得することができ、今後の里山での活動につなげることができた。

### (2) 課題

さとぷろ。学校を受講した市民等が、今後も安曇野市の里山で継続して活動ができるような仕組みを作ることが必要である。

また、運営側のスタッフを確保することが、今後の活動するうえで重要な課題となっている。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

令和2年度より第2次安曇野市里山再生計画が始まり、さとぷろ。学校も新たなメンバーにより運営される。新たな企画も検討されており幅広い年齢層へアプローチを計画している。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

安曇野市

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	地域住民との協働による森林作り活動の推進 【光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト】
事業費		117,000 円 (うち支援金: 110,000 円)

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

桜の名所として知られる光城山は、山林所有者や地元区、市民活動団体の保全活動により、豊かな自然環境が守り育てられてきました。

しかし、近年では桜の老木化、外来植物の侵入による周辺の自然環境の変化により、森林としての機能が低下しています。

#### (2) 本事業の目的

魅力ある地域の資源である「光城山」を後世に引継ぐため、桜の植樹活動を通じた「市民と行政の協働の推進」「市の一体感の醸成」を目的とします。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 安曇野市 豊科 光 (光城山)

(2) 対象者 山林所有者、地元区民、一般市民

(3) 実施方法 桜の植樹活動

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 桜植栽本数 640 本 (H26～H30 まで植栽実績 570 本)

②令和元年度実績 桜の植樹 70 本



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施の効果

桜の植樹活動を通じた「市民と行政の協働の推進」「市の一体感の醸成」が生まれ、植樹による健全な森林機能の発揮が期待される。

### (2) 継続性

市民と行政の協働による「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」により実施されており、今後も継続的に植樹や管理が行われていく。

### (3) 普及性

光城山は、市民等の憩いの場として、また健康増進の場として多くの方が訪れる場所であり、市民との協働事業として行われる本事業は、多くの方に目に見える形となる。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」が 11 月 30 日に実施され、80 名の参加により、桜苗木 70 本が植栽された。桜の植樹を通じ、健全な森林づくりが図られ、市民との協働による一体感が生まれている。

### (2) 課題

桜の管理を継続的に維持するため、地域を巻き込んだ市民との協働事業の継続的な実施。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

市民と行政の協働により実施されており、今後も継続的に植樹や管理を行っていく。

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

麻績村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害木伐倒駆除事業
事業費		545,600 円 (うち支援金: 511,000 円)

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当村では、近年松くい虫被害が急速に拡大しており被害量は年々増加しており予断を許さない状況である。本年度も特別防除、伐倒駆除に加え更新伐を組み合わせる対策を講じて、現在実施しているところである。

(2) 本事業の目的

春の伐倒駆除で被害を最小限に抑えているところであるが、夏から秋にかけての秋枯れ被害木の伐倒駆除を徹底することで、さらに被害量を抑えることを目的とする。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 麻績村一円

(2) 対象者 村内の山林所有者

(3) 実施方法 松くい虫の被害の拡大防止を図るためのアカマツ枯損木の伐倒駆除処理を実施。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 100 m<sup>3</sup>の伐倒駆除処理 (毎年約 20 m<sup>3</sup>)

②令和元年度実績 20 m<sup>3</sup>



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施の効果

春駆除は6月中旬までに処理してしまわないといけない時間的制約があるため、秋枯れ枯損木の早期伐倒駆除により、翌年の春駆除の事業量を抑え、被害拡大を最小限に食い止めることができる。

### (2) 継続性

麻績村における松くい虫被害は急激な温暖化等の影響により、比較的被害を受けにくいとされている標高が高い山地においても被害木が確認されるようになってきた。本事業を継続することにより被害の少ないエリアの山林を守り、被害の拡大・防止を図ることができる。また、道路などライフライン近くで被害を受けた枯損木を早期に伐倒駆除処理することで、倒木事故を未然に防ぐことができ、住民の安全を守ることができる。

### (3) 普及性

夏から秋にかけて山林は深緑であるため、松くい虫の枯損木が非常によく目立っている状況にある。伐倒駆除を実施することにより、枯損木が無くなった健全な山林を確認することができる。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

今回の事業で松くい虫被害が比較的に進んでいない地区において実施できたことにより、来年度の被害が最小限に抑えられたと思われる。また、今回実施した箇所は主要道路に隣接しており、将来的な倒木等の想定される被害を回避できたと考えられる。今後も引き続き伐倒駆除を実施していきたい、被害拡大防止に努めていきたい。

### (2) 課題

伐倒駆除、薬剤空中散布を毎年実施し被害拡大防止を図っているが、今年度は異常な猛暑によりマツノマダラカミキリの活動期間が例年より長く、今まで被害あまり被害が見受けられなかった箇所においても被害が確認されてきている。今後は被害があまり受けていない箇所等、優先順位を決めていく中で計画的且つ効果的に事業を進めていく必要がある。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も被害をあまり受けていない箇所や将来的にライフライン等に被害が及びそうな箇所を優先に事業を実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

生坂村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくりに資する取組	松くい虫枯損木処理事業
事業費 791,055 円 (うち支援金: 634,000 円)		

### 事業目的

#### (1)地域の森林・林業の現状と課題

生坂村では、マツノ材線虫による。松枯れの被害が拡大しており、松林健全化推進事業等により、伐倒薫蒸、空中散布により被害の拡大防止に取り組んでいるが、処理が間に合わず完全に枯れ切ったアカマツも多い、特に道路の沿線の枯損木については、倒木の危険があり、早急な対策が望まれているが、松林健全化推進事業の補助対象外である。

#### (2)本事業の目的

補助対象とならない、危険度の高い松の枯損木の伐倒処理を行うことで、住民の安全安心を図る。

### 事業内容

(1)実施場所 東筑摩郡生坂村大日向区・宇留賀区

(2)対象者 森林所有者

(3)実施方法 枯損木については、伐採業者に委託し、伐採・玉切り整理を行う。

#### (4)事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30～令和4年度) 枯損木伐倒処理 50m<sup>3</sup>

②令和元年度実績 枯損木伐倒処理 25m<sup>3</sup>



## 事業効果

### (1) 事業実施の効果

枯損木が倒れる前に、伐倒処理をすることで、村民の安全につながる。

### (2) 継続性

生坂村には魚骨状となった、枯損木が多数存在しており、今後計画的に処理していきたい。

### (3) 普及性

生活道路など、ライフラインに直結した、枯損木を処理することで、先述のとおり村民の安全が、確保されるほか、景観が改善される。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

マツ枯損木を適時に処理することにより、倒木による自己の防止および森林景観の保護図れる。

### (2) 課題

松くい虫被害が村内全域に広がる中、枯損木も村内に多数あり、処理が追いつかない。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

ライフライン沿いの枯損木が多数あるので、来年度以降も継続する。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

山形村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の取組み
事業費		618,408 円 (うち支援金: 551,000 円)

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

山形村における松くい虫被害は単発的ではあるが、毎年、特定の区域に集中して発生する傾向がある。

私有林の伐倒駆除に対しては、村から補助金を交付してきたが、自己負担があるため、特に被害が繰り返し発生している山林では所有者の負担が大きい。このため、駆除が行われず放置された場合に、松くい虫被害区域が拡大する恐れがある。

#### (2) 本事業の目的

村が伐倒駆除を行うことで、被害木の迅速な処分を行い、被害の拡大防止を図る。

### 事業内容

#### (1) 実施場所

山形村森林整備計画の対象森林である私有林

#### (2) 対象者

森林所有者

#### (3) 実施方法

村が発注し、松枯れが確認されたマツの伐倒・燻蒸処理を行った。

#### (4) 事業目標及び当年度事業量

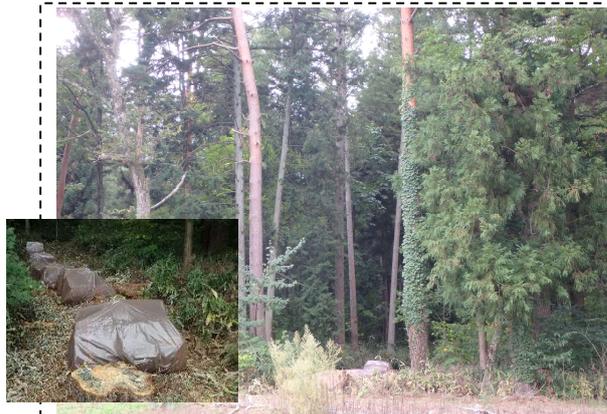
##### ①全体計画 (令和元～4 年度)

令和元年度 平成 30 年からの年越し枯れ及び当年枯れ伐倒駆除 10 本

令和 2 年度以降 被害状況により適宜伐倒駆除を行うほか、樹種転換等の対策も検討。

##### ②令和元年度計画

令和元年度 伐倒駆除 10 本 材積実績 20.45 立方メートル



## 事業効果

### (1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

村による伐倒燻蒸を行ったことで、松枯れが放置されず、被害拡大の防止につながった。

### (2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

村発注による事業とすることで、毎年度、確実な伐倒駆除を行うことができる。

### (3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

松枯れについては地域住民の関心も高く、枯損木が撤去されることで、森林が適正に維持管理されていることが周知された。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

予定していた数量の処分は完了できたが、本年度に入り、松枯れが想定より増加したことから、これらについて、別途、村による伐倒を行っている。

### (2) 課題

山林における松枯れは本事業により処理できたが、庭園木等、山林外で発生した松枯れは本事業の対象外であるため、迅速な処理がなされない恐れがある。

### (3) 今後の取組方向

#### ■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

村による伐倒駆除については今後も継続し、被害の傾向により他の対策を検討する。

#### □事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

#### □事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	朝日村
------	-----

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	県産間伐材利用推進事業 (役場交流ホール展示ケース、パンフレット台、来客用机)
事業費	533,000円	(うち支援金: 533,000円)

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

全体の 87%を山林が占める朝日村では、戦後カラマツが植林され、60 年が経ち、活用の時期を迎えています。しかし、村内の製材所はなくなり、林業従事者も皆無の状況でカラマツの利活用が求められています。

(2) 本事業の目的 ((1) の課題への対応方向について記載)

村産材カラマツで公共施設の備品を作り活用することで、直接触れてもらい、木材の有効利用を伝え関心を持ってもらう。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 朝日村役場 (大字古見 1555-1)

(2) 対象者 役場来庁者

(3) 実施方法 村内において木工作家が多くいるため、デザインと見積りをいただき、一番適したものを採用し、作成し配備を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年～4 年度)

令和 元年度 役場庁舎 木工品展示台 1 基、パンフレット台 1 基、客用机 2 基

令和 2 年度 図書館 木製本棚 役場パンフレット台 2 基

令和 3～4 年度 朝日村役場 来客用長椅子 5 基 図書館 椅子 10 脚



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施の効果

直接触れる村産製品を多くの村民が訪れる朝日村役場交流ホールに設置する事で、木製品の良さを広め、普及を図る事ができる。

### (2) 継続性

- ・パンフレット台から得た情報をその場で確認できるよう、来客用机と同じ空間に用意し、定期的に発信される役場の情報を村産木製品から得られる
- ・また、展示台は公共物の展示ではなく、村内の木工作家、製作所の製作の木製品を展示し、連絡先など掲示する事で、継続的な村内木材需要の向上を図る事ができる。

### (3) 普及性

- ・展示台は朝日村木工作家の小物作品展示を予定しており、制作者と消費者としての来庁者を直接つなぐことを目的としています。
- ・また、同一空間でパンフレット台と来客用机を用意する事で、得たパンフレットや木工製品に触れ合う空間を作り、村産材の普及を推進します。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

- ・朝日村役場交流ホールは、断続的なイベントの開催と、隣接のコンビニエンスストアなど活用した住民等の交流の場として活用が図られている。
- ・展示ケース、パンフレット台は、情報発信と村内工芸等の紹介の場所として、村内外の来庁者の認識を高め、今後の需要高揚につながります。

### (2) 課題

- ・木製品の良さを普及するためには、今後ともに整備を含めた普及啓発が必要と考えられ、次年度以降も公共施設、子供の居場所等における直接触れる調度品については、木製品化を検討する必要があります。
- ・また、購入や活用がしやすくなる方法を今後検討し、村内に基盤づくりの検討にも入る必要があります。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

**事業内容を見直して継続する**

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- ・今後ともに、普及するため事業継続を予定。ただし、事業内容については、都度精査を行い、より触れある空間を検討し、利用方法の改善を図り、実施したい。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	朝日村
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害防除事業 (松くい虫防除に関わる地上散布、伐倒くん蒸、樹幹注入への補助金)
事業費		162,300円 (うち支援金: 138,000円)

### 事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題 (別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

当年に入り、朝日村では松の枯損被害が急速に進行しています。村内に 826ha の松林を有しており、今後の動向により一層の注意が必要です。しかし、現在の被害箇所は人家集落に近く、空中散布等の対応が難しい現状があります。

(2) 本事業の目的 ((1) の課題への対応方向について記載)

個人所有地での樹幹注入、伐倒くん蒸、地上散布に対し、10/10、50,000 円上限の補助を行います。集落内に点在するアカマツ、クロマツ等、松くい虫の被害を防ぐことによって、被害拡大防止を目的とします。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 朝日村内

(2) 対象者 朝日村住民、朝日村内に土地を有し対象松がある方

(3) 実施方法 所有松について実施前申請、審査を経て、交付決定後、防除実施、完了後は完了報告をもって、補助金交付を確定する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

令和 元年度 8 申請 15 本 (樹幹注入 7 申請 14 本/伐倒駆除 1 本)

令和 2 年度 9 申請 36 本 (樹幹注入・伐倒駆除)

令和 3 年度 10 申請 39 本 (樹幹注入・伐倒駆除)

令和 4 年度 11 申請 42 本 (樹幹注入・伐倒駆除)



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施の効果

- ・集落内、個人所有の松被害を防ぎ、森林へ感染を低減する。

### (2) 継続性

- ・本年から急激に被害拡大しているため、今後も樹幹注入等の予防対策補助は継続的に実施する。
- ・また、所有者自身が対処する仕組みを推進する事で、今後発生が予測される村内松枯損被害の情報を提供してもらおう土壌を作る。

### (3) 普及性

- ・村内に広く周知(回覧板、広報等)し、松くい虫に対する補助事業を共有する事で、朝日村住民等へ広く注意喚起の効果が期待できる。
- ・また、松枯損の被害拡大抑制に繋げる事ができる。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

- ・村内広報等を活かした告知をする事で、申請件数は目標件数に至った。
- ・朝日村に松くい被害が出始めている認識を持っていただけた結果と考えている。

### (2) 課題

- ・本補助事業は平成28年から実施しており、次年度で5年を迎える。
- ・薬剤効果が5~7年程度である事から、薬剤の効果切れを考えて、さらに普及啓発の必要性がある。
- ・次年度以降は、従前の実施者等も含め、呼びかけをし、活用をさらに進める必要がある。

### (3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・広報等に加え、森林施業団体、生産森林組合、造園業者等を通じ、普及啓発を行い、活用率の増進を図ります。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

## 令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

筑北村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外 枯死木伐倒
事業費 1,188,000 円 (うち支援金 : 798,000 円)		

### 事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

#### (1) 地域の森林・林業の現状と課題

本村の坂北地域切通しにて枯死木が多数発生し、景観を損なっていると共に、今後倒木の恐れがある。また地区からの要望もでている。

#### (2) 本事業の目的

切通し道路沿いで枯死木の発生により、危険な状態となっている箇所があるため伐倒処理を行いたい。また観光地でもあるため景観の向上を図りたい。

### 事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 筑北村坂北地籍 青柳区 切通し

(2) 対象者 観光客、地域住民

(3) 実施方法 伐倒玉切り

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 村の景観を損ねている危険木の伐採

② 令和元年度実績 L=300.0m W=20.0m

着手前



完了後



## 事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

### (1) 事業実施の効果

枯死木伐倒による住民および観光客への危険回避  
観光地としての景観向上

### (2) 継続性

村内での危険木は多数あり、住民から要望の出ている公共性の高い場所の整備を行っている。

### (3) 普及性

枯死木による倒木の危険がある箇所が多数あり伐採の必要があると共に観光地でもあるため、景観向上が期待できるため効果的である。

## 事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

### (1) 目標に対する成果の状況

道に倒れる危険性のあった枯死木はすべて撤去し、交通の安全性が確保された。  
見通しが良くなり、景観が向上した。

### (2) 課題

村内に危険枯死木は多数存在しているため、今後も公共性の高い場所を選定し、実施していく必要がある。

### (3) 今後の取組方向

#### 事業を現行どおり継続する

村内の公共性の高い場所において、危険枯死木がある箇所について伐倒を進めていく。

#### 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

#### 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)